

# 肱川流域治水対策特別委員会

## 中間報告(要約)

委員長 向井敏憲

当委員会は、平成21年10月7日の臨時会において設置されて以来、今日まで、

当市の安全・安心の確保と清流肱川の復活に資するため、肱川流域の治水・利水・環境の総合的な河川整備等について調査・検討を行ってきました。

一級河川「肱川」は、地形的特性により治水対策が困難な河川であることから、これまでも様々な治水事業が実施されてきましたが、たびたび洪水に見舞われ、

川辺川ダム事務所視察の様子  
(熊本県)



流域住民に甚大な被害をもたらしております。

このような中、平成16年に肱川水系河川整備計画が策定され、山鳥坂ダム建設、鹿野川ダム改造及び河道整備が位置づけられ、国及び関係地方公共団体が一体となって取り組んできました。

しかし、平成21年10月に、山鳥坂ダムの事業凍結が発表され、当委員会では、委員会を開催し、事業の継続支援について、国へ要望を行いました。その後は、堤防整備や鹿野川ダム改造事業など、国交省に、随時報告を求めてまいりました。

そして、平成24年3月には、中下流域の河川整備の状況、台風浸水被害による今後の課題、鹿野川ダム改造事業及び山鳥坂ダム検証作業の進捗状況の報告を受け、根本的な課題解消のためには、肱川水系河川整備計画に基づいて早期に事業が進捗することが必要不可欠であることから、肱川流

域の治水対策の推進により治水安全度を早期に向上させるとともに、山鳥坂ダム建設事業については、地方の意見を尊重し、事業凍結を解除するよう各関係行政機関への意見書の提出が必要であると決し、議長へ提出しました。

また、平成24年7月には、熊本県及び鹿児島県へ行政視察を行い、白川・緑川の河川整備、川辺川ダム建設事業中止後の生活再建事業や鶴田ダムの再開発事業や下流域の河川整備事業等を視察しました。

平成25年1月に山鳥坂ダム事業の継続方針が決定されることとなり、国土交通

省より河川整備、山鳥坂ダム事業及び鹿野川ダム改造事業の概要等の説明を受けました。

このように、当委員会は、随時委員会を開催し、関係資料等の提供を受け、各委員が見識を高めながら活動してきました。特に、山鳥坂ダム関係者にとっては、予備調査以来31年が経過しており、主要地方道小田河辺大洲線は未改良であり、さらに、高齢化する水没地域住民の生活再建、地域振興は一刻の猶予もなく、喫緊の課題となっております。

また、肱川流域の治水対策につきましては、河川整備計画に基づき計画的な整

備が進められておりますが、平成27年度末には、鹿野川ダム改造事業が完了することにより洪水位の低減が見込まれており、今後の治水事業の強力な推進による治水安全度の早期向上が期待される所です。

当委員会としては、肱川水系河川整備計画における各事業の促進、そして一日も早く、市民の安全・安心の確保を図るため、今後とも引き続き調査・検討を行い、その実現に向けた対策を講じていくべきとの結論に達しました。

### 鹿野川ダム改造事業



トンネル洪水吐き工事周辺とトンネル内部(H25年8月撮影)



### 鹿野川ダム改造事業

(完成イメージ図)

